

地方中枢拠点都市への取組 (盛岡広域圏の連携)



平成27年1月14日
盛岡市副市長 佐藤光彦

1 盛岡広域圏(3市5町)

盛岡市 29.9万人

八幡平市 2.9万人

滝沢市 5.4万人

雫石町 1.8万人

葛巻町 0.7万人

岩手町 1.5万人

紫波町 3.3万人

矢巾町 2.7万人



2 盛岡広域首長懇談会の取組

- ◆ 設立 平成20年5月
- ◆ 目的 共通する行政課題に連携して取り組むことにより
 - ① 求心力のある中核的な都市圏の形成
 - ② 構成団体の一体的な発展
 - ③ 住民福祉の向上を図る。
- ◆ 構成 盛岡市, 八幡平市, 滝沢市, 雫石町, 葛巻町, 岩手町, 紫波町, 矢巾町
- ◆ 専門部会の取組



①人材育成部会

②観光振興部会

③国体部会

④公共交通部会

⑤企業誘致部会

⑥消費生活部会

⑦食農推進部会

⑧救急医療部会

(1) 消費生活部会

■ 消費者行政の共同実施／盛岡広域消費生活センター

市町名	消費者相談	消費者講座	出張相談会	広報啓発	盛岡市への負担金
盛岡市	489件	134回		年6回	—
八幡平市	40件	10回	月1回	年3回	297,100
滝沢市	174件	9回		〃	729,800
雫石町	46件	1回		〃	209,300
葛巻町	12件	3回	月1回	〃	62,600
岩手町	32件	4回	月1回	〃	226,000
紫波町	10件	4回		〃	384,800
矢巾町	75件	3回		〃	357,600
計	3,164件	168回			2,267,200

認知症の高齢者が狙われています!

不審な電話が頻発

出前講座でトラブルを予防

近年、悪質商法は巧妙化し増加しています。悪質商法などに関する予備知識や対応策をあらかじめ知っていれば、被害に遭わずに済む事例も多いです。消費生活センターは、悪質商法やお金のしつこい認知症予防など消費者生活や暮らしに関する情報を広く知ってもらうため「出前！消費者講座」を要約したお持ち帰り資料を準備しています。ぜひご利用ください。

【費用】講師の派遣は無料。会議の使用料などは申込団体の負担【申し込み】日時と場所、受講したい講座を決めて、消費生活センター ☎604-3301へ電話かファクス624-4123でお申し込みください

講座名	講座の内容	主な対象
悪質商法に注意しよう	悪質商法の事例もたっぷり紹介。勧誘法や、取引日誌などの活用も紹介。080-9000の活用も紹介。	消費者
お金のしつこい認知症予防	認知症予防の重要性や、お金のしつこい認知症予防の重要性を伝える。お金のしつこい認知症予防の重要性を伝える。	高齢者
不審な電話の対応	不審な電話の対応方法や、不審な電話の対応方法を伝える。	消費者
悪質商法に注意しよう	悪質商法の事例もたっぷり紹介。勧誘法や、取引日誌などの活用も紹介。080-9000の活用も紹介。	消費者
お金のしつこい認知症予防	認知症予防の重要性や、お金のしつこい認知症予防の重要性を伝える。お金のしつこい認知症予防の重要性を伝える。	高齢者
不審な電話の対応	不審な電話の対応方法や、不審な電話の対応方法を伝える。	消費者
悪質商法に注意しよう	悪質商法の事例もたっぷり紹介。勧誘法や、取引日誌などの活用も紹介。080-9000の活用も紹介。	消費者
お金のしつこい認知症予防	認知症予防の重要性や、お金のしつこい認知症予防の重要性を伝える。お金のしつこい認知症予防の重要性を伝える。	高齢者
不審な電話の対応	不審な電話の対応方法や、不審な電話の対応方法を伝える。	消費者

- ◆ 平成22年度から盛岡広域市町における消費者行政の共同実施を開始している。
- ◆ 平成26年は、地方消費者行政活性化事業費補助金を一部活用した。
- ◆ 消費生活センターの職員、所長1人、職員4人、消費生活安全調査員1人、消費生活相談員9人、その他1人計15人

(2) 救急医療部会

■ 盛岡広域圏の救急医療の現状

盛岡医療圏域／一次・二次救急患者数

区分	病院名	外来患者数	入院患者数	救急車搬入患者数
A群	岩手医大病院	21,725	1,184	1,190
A群	県立中央病院	13,113	3,780	4,060
A群	盛岡日赤病院	7,323	1,768	1,623
B群	盛岡市立病院	1,005	176	151
B群	遠山病院	340	68	60
B群	八角病院	2,817	110	140
B群	高松病院	1,526	97	399
B群	栃内病院	554	81	192
B群	繋温泉病院	512	152	157
B群	友愛病院	1,059	128	152
B群	川久保病院	2,996	166	130
B群	国立盛岡病院	207	56	39
	合計	53,177	7,766	8,293

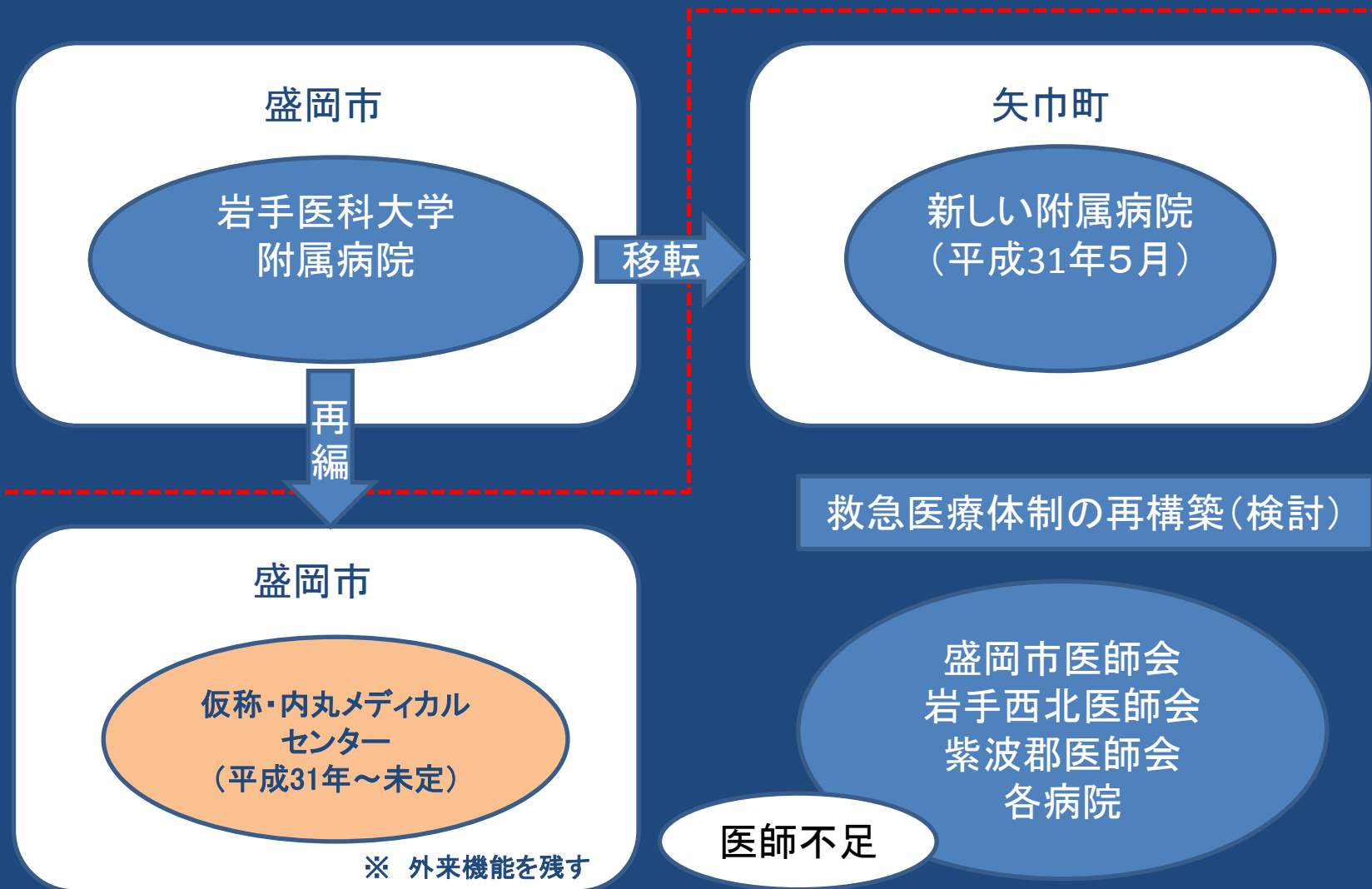
岩手医大病院／地域別救急来院患者数

地域名	一次・二次救急患者数	三次救急患者数
盛岡市	13,995	1,980
八幡平市・岩手郡	3,819	638
久慈・二戸	142	38
紫波郡	1,447	226
花巻市	331	93
北上・奥州	284	84
一関・磐郡	64	25
遠野・釜石・気仙	299	82
宮古・下閉伊	310	122
その他	896	184
合計	21,725	3,503

※ 資料 岩手医科大学(平成23年実績)



救急医療体制の再構築(検討)



(3) 企業誘致部会

共同実施

- ◆ 盛岡広域企業立地セミナー
- ◆ 企業誘致トップセミナー
- ◆ 在京盛岡広域産業人会との連携・協力



セミナー



視察会

市町名	実施に係る負担金
盛岡市	847,000
八幡平市	216,000
滝沢市	239,000
雫石町	190,000
葛巻町	163,000
岩手町	183,000
紫波町	209,000
矢巾町	213,000
計	2,760,000

(4) 成果と課題(盛岡広域首長懇談会)

◆成果

- ・職員研修の充実(相互に研修参加)
- ・消費者行政の広域化の実践(相談・出前講座)
- ・企業誘致活動の連携(在京盛岡広域産業人会の設立、トップセールスほか)
- ・東日本大震災の復興支援
- ・ご当地ナンバーの導入

◆課題

- ・岩手医科大学移転に伴う救急医療体制の再構築
- ・専門部会の成果向上と検証
- ・首長懇談会、事務検討会議、専門部会の運営(各市町の事務負担増加)
- ・懇談会の運営に係る盛岡市の役割、効果、責任、権限が不明確

3 地方中枢拠点都市への取組

◆ 新たな広域連携モデル構築事業

- ・平成26年6月 総務省モデル事業採択
- ・ 9月 盛岡広域圏経済戦略策定懇話会(第1回)
- ・ 9月 関係市町ヒヤリング調査
- ・ 10月 盛岡広域圏経済戦略策定懇話会(第2回)
- ・ 10月 関係市町合同視察(八戸圏域定住自立圏)
- ・ 11月 盛岡広域圏経済戦略策定懇話会(第3回)
- ・平成27年1月 盛岡広域経済戦略策定懇話会(第4回)
- ・ 2月 盛岡広域経済戦略策定懇話会(第5回)
- ・ 2月 盛岡広域首長懇談会
- ・ 2月 盛岡広域経済戦略の策定
- ・ 2月 連携協約(案)、都市圏ビジョン(案)の検討

◆ 盛岡広域首長懇談会

- ・平成26年5月 盛岡広域首長懇談会(モデル事業申請)
- ・ 11月 盛岡広域首長懇談会(経過説明)
- ・平成27年2月 盛岡広域首長懇談会(経過説明)

◆ 議会関係

- ・平成26年7月 盛岡市議会(総務常任委員会/モデル事業説明)
- ・ 11月 盛岡広域8市町正副議長懇談会(モデル事業説明)

◆ 平成27年度の予定

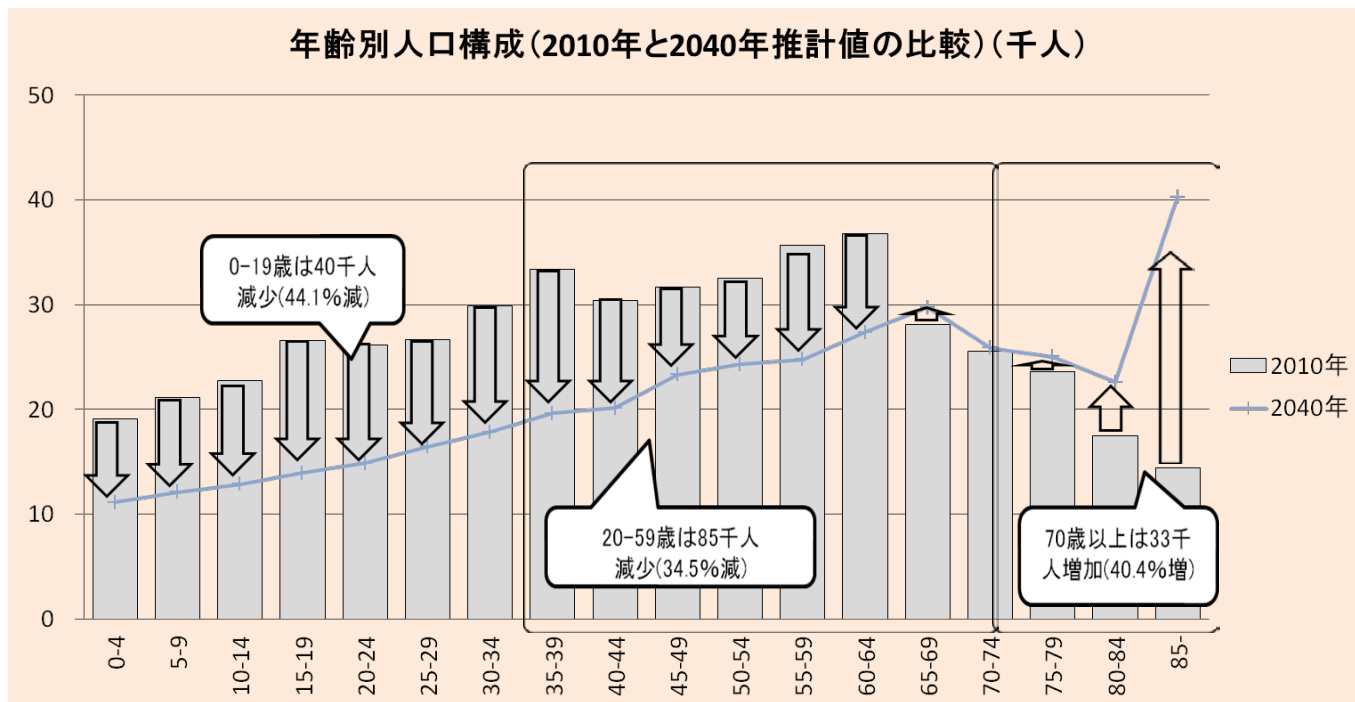
- ・平成27年4月～ 地方中枢拠点都市宣言
連携協約の締結、都市圏ビジョンの策定



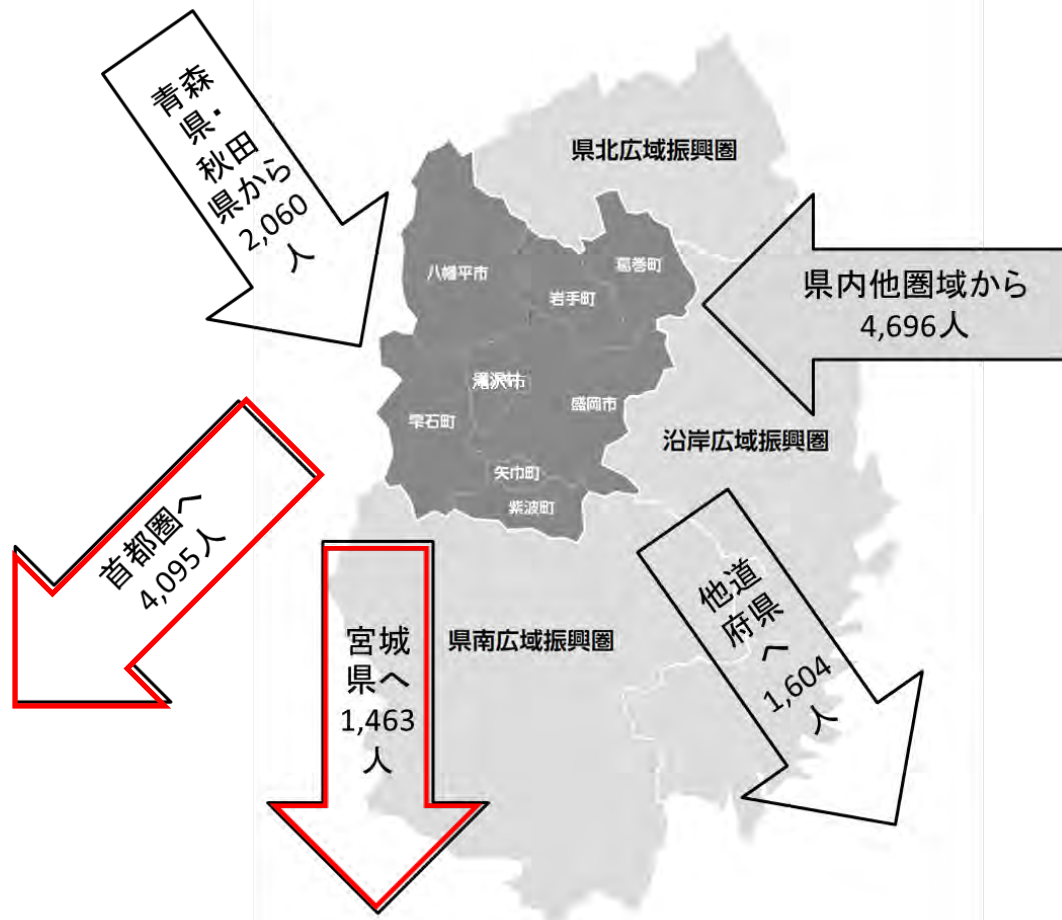
盛岡広域経済戦略策定懇話会

(1) 人口推計(2010・2040比較)

	盛岡市	八幡平市	滝沢市	雫石町	葛巻町	岩手町	紫波町	矢巾町	合計
2010年	299	29	54	18	7	15	33	27	482
2040年	244	16	51	11	4	9	26	21	382

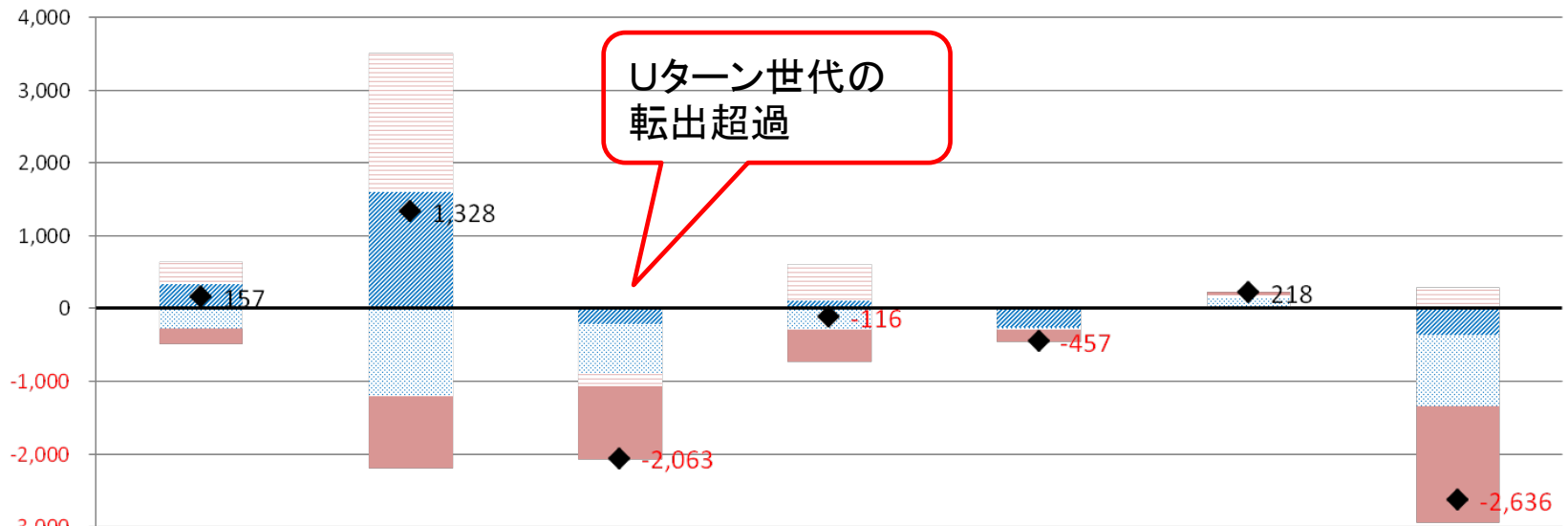


(2) 人口の社会動態(分析1)



(3) 人口の社会動態(分析2)

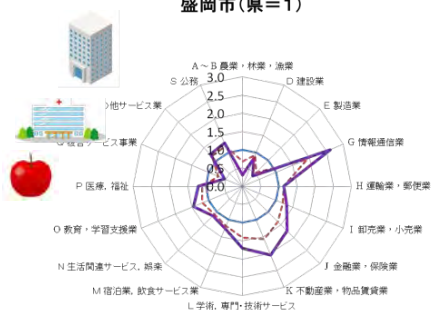
盛岡広域圏



	親付きの子ども世代(5~14)	高校・大学進学世代(15~24)	Uターン世代(25~34)	マイホーム購入世代(35~49)	退職前熟年世代(50~59)	退職後世代(60~69)	(再掲)25~59合計
■女-他県	-227	-987	-995	-432	-168	45	-1,595
■女-県内	301	1,919	-192	495	-7	47	296
■男-他県	-263	-1,204	-663	-292	-20	136	-975
■男-県内	346	1,600	-213	113	-262	-10	-362
◆合計	157	1,328	-2,063	-116	-457	218	-2,636

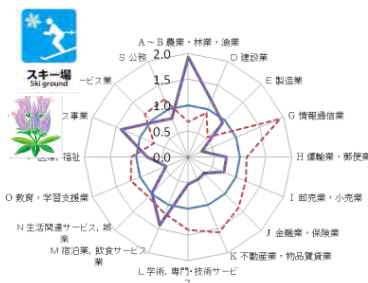
(4) 就業者数(市町別の特化係数)

産業別就業者数 特化係数
盛岡市(県=1)



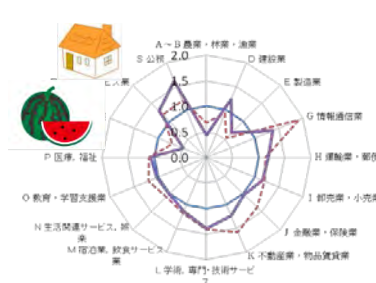
(盛岡市)

産業別就業者数 特化係数
八幡平市(県=1)



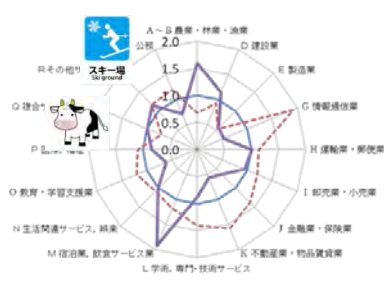
(八幡平市)

産業別就業者数 特化係数
滝沢市(県=1)



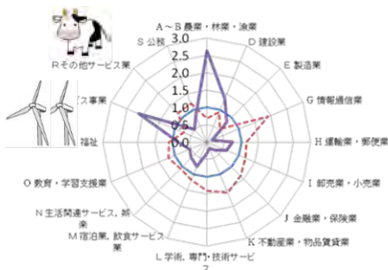
(滝沢市)

産業別就業者数 特化係数
雫石町(県=1)



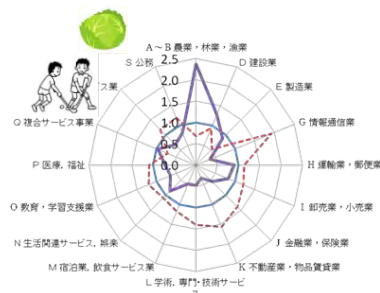
(雫石町)

産業別就業者数 特化係数
葛巻町(県=1)



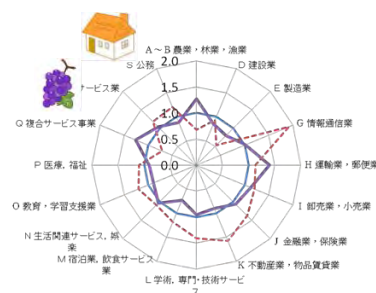
(葛巻町)

産業別就業者数 特化係数
岩手町(県=1)



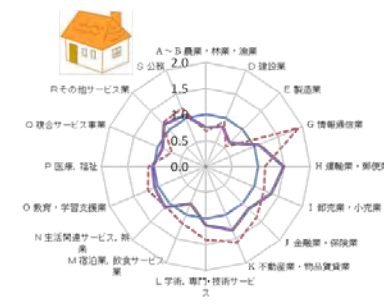
(岩手町)

産業別就業者数 特化係数
紫波町(県=1)



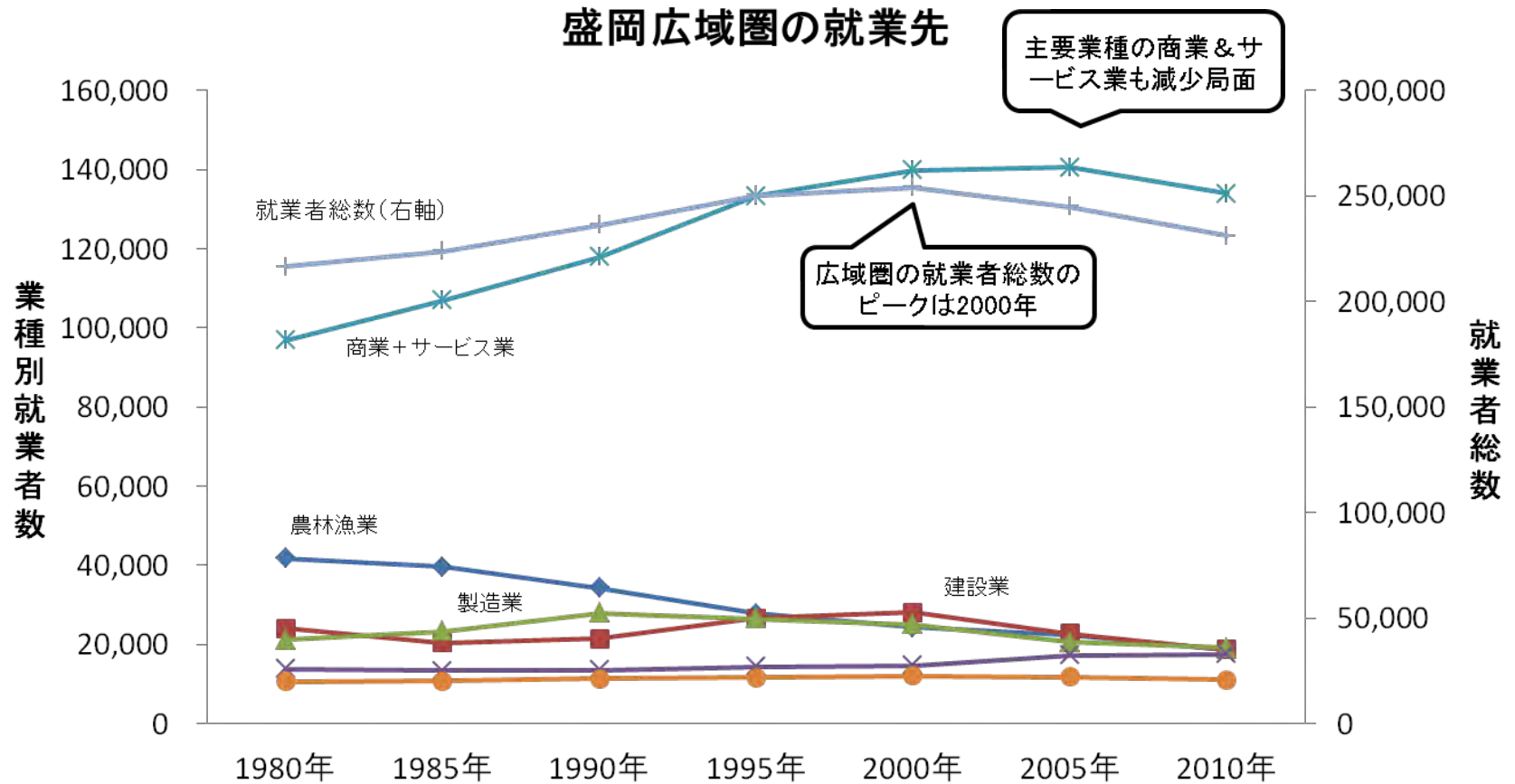
(紫波町)

産業別就業者数 特化係数
矢巾町(県=1)



(矢巾町)

(5) 就業者数(推移)



(6) 産業の特徴と課題

特徴

- ◆ 豊富な地域資源
(農畜産物、温泉、スキー場)
- ◆ 産学官連携の実績
岩手大学、岩手県立大学、岩手県工業技術センター、盛岡市産学官連携研究センター(コラボMIU)、滝沢市IPUイノベーションセンターほか
- ◆ 地域文化型の食品関連産業の展開(パン製造業、麺類製造業)
- ◆ 交通の結節点(東北自動車道路、東北新幹線、盛岡・宮古復興支援道路)



(食品関連産業の展開)

課題

- ◆ 若年層の圏域外への流出
- ◆ 農畜産物の高付加価値化と販路拡大
- ◆ 食料品製造業など主要な業種の付加価値額の引き上げ
(給与水準のアップ)
- ◆ 滞在型観光の推進
- ◆ 起業、新製品開発等に対する支援
- ◆ 国際リニアコライダー誘致をにらんだ産業展開

(7) 今後、想定される展開(拡充)

◆産学共同研究事業補助金(経済成長のけん引)

圏域中小企業者が新技術の導入及び高度化を図るために大学等と実施する産学共同研究及び委託研究に要する経費に対し助成する。(補助率1/2, 上限50万円)

⇒対象を圏域市町の企業・個人にも拡大【事業費1,700千円(一財1,700千円)】

◆産業支援センター管理運営事業(経済成長のけん引)

市内で起業しようとする方や起業後5年以内の事業者等が、インキュベーションマネージャーのサポートを受けながら事業活動を行うSOHOタイプのインキュベーション施設の管理運営を行う。

⇒コワーキング事業を追加(スタッフ1名増)【事業費22,379千円(一財)20,237千円】



インキュベートゾーン



交流ゾーン



建物外観(3階が支援センター)

(7) 今後、想定される展開(拡充)

◆産学官連携研究センター（コラボMIU）管理運営事業（経済成長のけん引）

新技術又は新製品の研究開発を行うため、岩手大学と共同研究を実施する企業等が、インキュベーションマネージャーのサポートを受けながら事業活動を行う研究室タイプのインキュベーション施設の管理運営を行う。 ⇒盛岡広域圏担当のコーディネーター 1名増

【事業費24,403千円（一財）7,279千円】

◆新事業創出支援センター（M-tec）管理運営事業（経済成長のけん引）

創業間もない先端技術企業や、新技術、新製品、新事業の事業化を目指す企業等が、インキュベーションマネージャーのサポートを受けながら事業活動を行う貸工場タイプのインキュベーション施設の管理運営を行う。 ⇒コーディネーター 1名増

【事業費13,382千円（一財）5,667千円】



(7) 今後、想定される展開(新規)

- ◆ (仮称) 盛岡広域圏産業振興事業団運営事業 (経済成長のけん引)
 (仮称) 盛岡広域圏産業振興事業団を設立し、盛岡広域圏の企業の新分野進出支援や起業家支援、産業間交流を促進するための交流会・展示会等を行うもの。
 【事業費200,000千円 (一財) 75,200千円】
- ◆ (仮称) 食産業連携強化事業 (経済成長のけん引)
 広域市町における多様な農畜産物を活用した産業振興を推進するため、農業生産者及び域内の商工業者や飲食店関係者等食産業に関わる事業者を対象としたセミナー等を開催し、食を通じた域内全体の産業活性化を図ることを目的とする。
 【事業費1,000千円 (一財) 1,000千円】
- ◆ (仮称) 盛岡広域食の夕べ開催事業 (経済成長のけん引)
 域内の特色ある農畜産物の認知度向上と食材としての利活用機会の増大を図るため、地域住民や食産業関係者等を対象としたディナー提供形式のイベント(ビジネス・マッチングの機会提供)として開催する。
 【事業費3,000千円 (一財) 2,000千円】

(7) 今後、想定される展開(新規)

◆ 冬季外国人客受入環境整備推進事業 (経済成長のけん引)

冬季間における海外からの訪日客を八幡平(安比高原)に誘客するため、県及び八幡平市と連携し、魅力ある観光資源のPRを行う。①スキー場(安比高原)から盛岡中心部へのバス運行 ②外国人向けガイドマップ(繁体字・英語)の作成 ③アンケート調査 ④消費額調査実施 等
【事業費7,000千円(一財)7,000千円】



◆ M I C E 誘致推進事業 (経済成長のけん引)

M I C E を本市に誘致することを目的に、(公財)盛岡観光コンベンション協会に負担金を支出し、M I C E 開催者に対して費用の一部を助成する。

【事業費26,000千円(一財)26,000千円】



◆ 産業博覧会開催事業 (経済成長のけん引)

広域圏の企業が自社製品及び技術をアピールする機会として、産業博覧会を開催し、企業間連携の促進を図る。

【事業費20,000千円(一財)20,000千円】

(7) 今後、想定される展開(新規)

◆ 配偶者暴力相談支援センターの広域化 (生活機能強化)

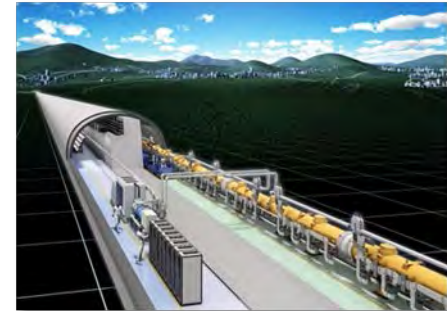
盛岡市配偶者暴力相談支援センターの広域的対応に向けて、出張DV相談、宿泊場所提供事業の実施などについて検討を行う。

【事業費3,751千円 (一財) 3,751千円】

◆ 基礎科学学習の推進 (生活機能強化)

子ども科学館を中心として、近隣の天文台施設などと連携し、国際リニアコライダーに関する展示やPR番組制作、講演会などを開催し、基礎科学学習の推進に努める。

【事業費14,842千円 (一財) 14,842千円】



◆ (仮称) 盛岡広域圏定住・移住推進事業 (結びつき・ネットワーク)

盛岡広域圏の定住・移住窓口をワンストップ化し、相談対応や田舎体験インターンシップ事業、地域おこし協力隊の受け入れ、情報誌の発行、ホームページ運営等を行うもの。

【事業費50,000千円 (一財) 50,000千円】

(8) 地方中枢拠点都市に向けて

さまざまな課題

- ◆ 関係市町のメリットが見えにくい。
(産業構造等の違いから、都市圏ビジョンを圏域全体のメリットとして共有しにくい)。
- ◆ 特にも、経済戦略の取組には関係市町で温度差が出ている。
- ◆ 新たな連携に伴う拠点都市及び関係市町の責任と事務負担が増加する。

現在の状況

◆ 関係市町	新たな取組に対して慎重姿勢(効果、費用負担)であるが、広域連携の必要性については共通認識を持っている。
◆ 盛岡市議会	新たな取組に対して高い関心 (期待、関係市町への配慮)
◆ 岩手県	盛岡地方振興局による積極支援 (会議での助言、資料提供、補助金)

(9)地方中枢拠点都市に向けて

期待するところ

- ◆ 国の財政支援により新たな取組や、継続的な取組が可能となること。
- ◆ 広域圏としての資源の共有が図られること。
- ◆ 各取組の費用対効果が高まること。
- ◆ 生活圏の一体感の醸成が図られること。
- ◆ 広域圏の連携強化につながること。

制度の充実強化

- ◆ 関係市町のメリットが見えにくい。
周辺市町への財政支援を強化する。
- ◆ 拠点都市の担う事務が大きいことから、事務手続きの軽減を図る。

4 おわりに

地方の望ましい姿

- ◆ 人材(医師、企業人など)を育成する力があること。
- ◆ イノベーションを起こす力(人・もの・金・情報)があること。
- ◆ 人材が地元に着定すること。
- ◆ 雇用の場をつくり、家族が近くで一緒に暮らせること。



(岩洞湖 わかさぎ 釣り)